

国際会議報告
INTERNATIONAL
MEETINGS

国際会議報告

PTRC 会議報告

宮城俊彦*

Toshihiko MIYAGI

昨年9月、イギリスのサセックス大学における PTRC 会議に出席する機会を得た。PTRC という名前は聞いたことがあるという会員も多いと思われるが、その実体はわが国ではあまり知られていないように思う。私は1984年と昨年の2回出席しただけなので PTRC の全容を伝えるには役不足であるが、知り得る範囲で PTRC 国際連合の活動の概要を紹介し、続いて1990年会議の内容を報告する。

PTRC は Planning and Transport Research and Computation の略であり、PTRC International Association はわが国の土木計画学委員会と同時期の1966年に設立され、ロンドンの PTRC Education and Service Ltd. (ERS) とローマの PTRC Italia の2つの組織で構成される非営利組織である。活動の主たる目的は、交通、土地利用そして関連分野に携わる研究者・技術者の研究・開発の成果を講習会、会議、セミナー等を通して意見交換し、国際的な研究交流を促進することにある。PTRC 国際連合は、講習会や国際会議以外にも自宅研修制度、1年に50以上の課題にわたる教育コースの開設など、交通に携わる中・高級技術者の教育活動にも力を入れているのが特徴であり、この種の組織はヨーロッパでは PTRC 以外にはない。その意味ではアメリカの Transportation Research Board (TRB) と類似の性格をもち互いに補完しあう組織となっている。

PTRC の活動の中でもとりわけ重要なのが、毎年夏に開催される Summer Annual Meeting (通称 SAM) であり、1973年から数えて昨年で第18回目を迎えている。SAMに参加する人数、国数も年々増加する傾向にあり、1989年では800人、30か国以上からの参加があった。

SAM はイギリス土木技術者協会の承認する会議であり、イギリス国内の大学で開催されるが、近年はロンドン南方80km、イギリスの最も伝統的避暑地のブライトンにあるサセックス大学で開かれるのが定着してきた。その理由は、気候が温暖で宿舎も完備しており、空路、道路、鉄道によるアクセスがよいためである(ガトウィッ

ク空港より約30km)。

昨年の第18回の SAM は次のような主要テーマを題材として論文募集が行われ233編の論文発表があった。

- A. ヨーロッパの交通における現在の問題点
- B. 環境問題
- C. 交通政策
- D. 公共輸送計画・運営
- E. 土地利用計画(昨年から新たに設けられた)
- F. 交通弱者のための交通
- G. 交通管理と交通安全
- H. 交通計画手法
- I. 道路評価設計と運用
- J. 道路建設と維持・管理
- K. 開発途上国の公共交通
- L. 交通財源問題
- M. 開発途上国の交通と環境

日本からは宮城・溝上そして森杉・大野・宮城の2編の論文が発表された。発表時間20分、質疑応答30分の計50分の持ち時間があり、質問はどの発表者にも少なくとも5個くらいはあり、かなり活発な議論が展開された。したがって、われわれのように英語が下手な者にとっではかなり荷が重いと感じた。

われわれが参加したセッション、交通計画手法(セミナーH)に発表された論文をタイトルを中心にごく簡単に紹介しよう。

交通計画手法セミナーは、評価、分析と統計、行動論問題、非集計モデル、データ収集、歩行者モデル、混雑の7つのサブセッションに分類された。

[評価](3編)

「公共交通における利用者と非利用者の便益評価」が Leeds 大学の A. L. Bristow によって報告された。「公共交通基盤整備プロジェクトに対するイギリス政府セッション56補助評価基準の需要予測への影響」という実際のケーススタディが MVA コンサルタントの P. Williams によって報告された。森杉・大野・宮城は「交通便益に占める地主便益の割合の測定」と題して発表を行った。

[分析・統計](3編)

*正会員 工博 岐阜大学教授 工学部土木工学科
(〒501-11 岐阜市柳戸1-1)

Leeds大学のFowkes, A. S. とWatson, S. M. は「道路改善のインパクトを評価するための標本数の決定」と題し、また、同大学のWatling, D. P. は「部分登録プレートデータを分析するための最近の技術の発展」について報告した。Middlesex PolytechnicのWright C. C. は「交通量観測値からのODフローの推定…いくつかの新しい可能性」というタイトルで報告している。

[行動論的問題] (3編)

このセッションでは、「学生のモビリティ」と題する論文がオランダのBureau Goudappel Coffengのメンバーによって発表され、続いてOxford大学のPolak, J. とVythoukas, P. が「動的ドライバー情報システムのための交通量予測へのアプローチ」、Leeds大学のBonsall, P. とParry, T. による「ルートガイダンス案内に対するドライバーの反応を決めるためのコンピュータ・ゲーム・シミュレーション」という興味深い論文が報告された。

[非集計モデル] (3編)

このセッションでは、Oxford大学のPolak, J. そしてAxehausen, K. によって「Birmingham市での駐車政策分析へのCLAMPの応用」の発表の後、Hagueコンサルタント・グループのDe Jong, G. C., 同じくBradley, M. A. とKroes, E. P. によって「交通分析における離散一連続モデル」、「口述選好および顕在化選好情報の同時分析」と題するこの分野における比較的新しいテーマの報告がおのおの行われた。

[データ収集] (2編)

Leeds大学のDew, P. M. は「オーディオ=ビデオを使った登録プレート調査」、G. Maunsell & Partnersコンサルタントのメンバーは「高速道路トリップのデータ収集—ビデオカメラを使った新手法」について報告した。

[歩行者モデル] (4編)

ロンドン地下鉄(株)のMaw, J. R. とHalcrow Fox & AssociatesコンサルのDix, M. は「ロンドン地下鉄の駅混雑緩和計画の評価」を発表し、続いてTransportation Planning AssociatesのRickard, J. M. とFearon, E. J. による「公共交通配分手法の進展：インナーシティー再生地域における比例配分アルゴリズムの適用」およびGreater Manchester Transportation UnitのStebbing, F. H. M. による「ルート選択パラメータの安定性」についての発表があった。最後に、ドイツのBremen大学のSchittenhelm, H. による「有効配分アルゴリズムとバスの統合化および交通分布・配分統合アルゴリズムにおけるバスフローの扱い方」と題する論文が報告された。

[混雑] (7編)

Hague Consultant GroupのDaly, A. D. とGunn, H. E. は「大規模モデルにおけるピーク時比率」を、また、MVA ConsultancyのJ. Batesを代表とするグループは「道路混雑料金が存在する場合の出発時間選択モデル」を報告した。宮城・溝上は「混雑のある交通ネットワークにおける半動的交通配分モデル」を発表している。Cranfield Institute of TechnologyのBlack, I. G. とTowniss, J. G. は「所要時間の不確実性に対する高速道路利用者の適応的反応」について報告している。Travers MorganコンサルタントのHodson, J. D. は「South Circular アセスメント調査のためのSATURNネットワークの開発」の発表に続いて、Halcrow Fox & AssociatesのCoombe, D. が「ロンドンにおける最近の交通モデルの進展」について報告した。最後に、Montreal大学のSpiess, H. とスイスのRapp Ingenieure und Planer AG. のSuter, D. による「一時間を基礎とした日フローのモデル化」と題する論文報告が行われ、4日間にわたるすべてのセッションがすべて終了した。

以上がセミナーHの概要であるが、論文については各セミナーごとに別冊の論文集として発行されている。なお、会議終了後にはテクニカル・ビジットが企画されているが、昨年度はロンドン・ドックランドと海峡トンネルの2つのコースが設定された。また、SAMでは35才以下の研究者の発表に対し、審査会で優秀と認められた論文にNeil Mansfield記念賞を授与している。授賞式はロイヤルパビリオンにおけるブライトン市長主催のレセプションにおいて行われ、昨年度は2人の若年研究者がこの賞を受けた。最後に、PTRCがわが国の土木計画学研究委員会と異なる点を私なりに整理してみた。

- (1) 事務局が学会組織の一部としてではなく、独立した会社組織として種々の企画を立案している。
- (2) 中央、地方政府そしてコンサルタントの交通に携わる技術者の参加発表が非常に多い。
- (3) 研修やセミナーだけでなく、自宅学習制度や数多く設定されたコース教育など、教育・訓練にも力を入れている。また、ニューズレターを通して逐次情報を流しているが、その中には各種の計画やプロジェクトの紹介だけでなく、その業務をどこのコンサルが受注したかなどの情報を含み、わが国との国情の違いを感じる。
- (4) 開発途上国の研究者や技術者のレベル向上を大きな課題としている。また、マイクロ・コンピュータを用いた分析の教育・研修に力を入れている。
- (5) 昼間の討議だけでなく、夜間にも多くのセミナーや討論会が設けられており、真面目な参加者はまさに一日中勉強している感がある。